



The Association of Liquid Filtration and Purification Industry

LFPI News Letter

Summer 2021 No.96

今一度、「社会性」の大切さへ意識を！



コロナ禍の中、加速度的に変化への対応が求められてから、早くも1年以上が経過しようとしております。対応に追われて、大変な日々もあり、御苦労された会員企業様も多くいらっしゃると思いますが、前向きに考えれば、多くの取り組みに対応することができた、対応できなかったが、改善しなければならない問題を発見することができたなど、改めて気付くことも多い1年だったのではないのでしょうか。

よく耳にされていることとは思いますが、ダーウィンの「強い者とは…変化へ対応できる者である。」それでは、変化に対応するためには、どのようにしたら良いのでしょうか？

私見ではありますが、そのために必要なことは、成長だと考えております。

昨日よりも今日、今日よりも明日、1mmでも1%でも成長することができているのか？昨年の自分と比較して今の自分は少しでも成長することができているのか？常に自問自答しながら学び、経験、実践を繰り返しながら変化へ対応できる準備を怠らないことが大切なのではないのでしょうか。その時、根底にある大切な想いが、最近少しずれているのではないかと感じております。そもそも企業は何のために存在しているのか？「世の中のお困りごとを解決するため」だったのではないのでしょうか。企業の最大の目的は「継続」だったのではないのでしょうか。継続のための手段として、利益の追求や教育、貢献などがあると考えております。

そもそも「社会性」「独自性」「経済性」という考え方で一番重要視されなければならないのは、「社会性」であり、物事の判断基準は、「良いか・悪いか」ということだったと思います。それが私の感じているズレは「経済性」の優先、判断基準が「儲かるか・儲からないか」ということになっているのではないかとことです。

日本には、「三方よし」「吾唯知足」「和を以て貴しとなす」など素敵な考え方が昔からございます。今のような時期であるからこそ、原点を振り返り、しっかりとした今後のビジョンを検討する時期でもあるような気がしております。

当会におきましては、共に情報を共有し、切磋琢磨できる多くの会員企業様と交流をもたせていただける場でありますので、更に多くの会員企業様が今後ご参加いただけることを願っております。今後、Afterコロナなのか、Withコロナ、Beyondコロナ、どのような呼び方になるのかはわかりませんが、コロナ前の日常というものへは、戻らないと思います。

「社会性」を大切に变化へ対応することが、今後も求められていくと思いますので、当会の会員企業様と共に成長していくことが、これからもできればと考えております。

最後になりますが、皆様の御健勝と今後の成長、ご活躍を心からお祈り申し上げます。

大塚実業株式会社

代表取締役

LFPI海外情報セミナー

テーマ：コロナ禍におけるアジア諸国の水処事情

日時：2021年6月16日 13時30分～17時15分

場所：オンライン (ZOOM)

参加者：28名

【目的】

新型コロナウイルスの影響で海外への拡販や展示会出展が厳しい中、アフターコロナに向けて現在のアジア諸国における水処事情の情報を共有し知見を深める。また、オンライン形式だが講演内容以外の情報交換や人材交流の場とする。

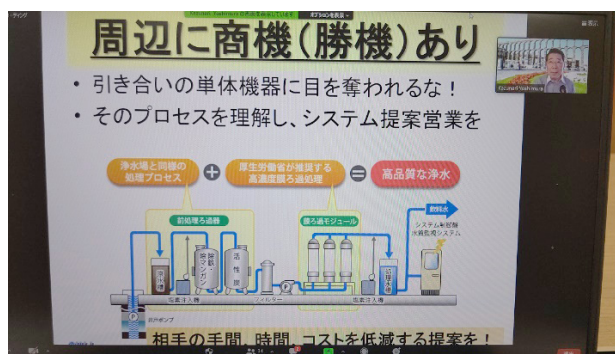
【内容】

講演1 世界と日本の水ビジネスについて

講師：グローバルウォータージャパン 代表 吉村 和就 氏

世界の水ビジネスの現状と将来性、日本の水ビジネスの現状と将来性、水が支えるSDGsをご講演頂いた。今後、アジア・オセアニアエリアにおける水インフラへの投資額が9.04兆ドルとEU及び北米と比較しても非常に高い投資額が試算されている。世界の水関連市場に関する伸びに関しても、世界的な水処理関連機器市場は年6%、淡水化ビジネスは年14%と非常に高い伸び率であることを教示頂いた。日本国内では、上・工・下水の官民連携運営事業のビジネスモデルにおいて単体機器に関する対応をするのではなく、そのプロセスを理解し、システム提案営業を(相手の手間、時間、コストを低減する提案)行うよう助言頂いた。水が支えるSDGsとしては下水道が有する多様な資源・エネルギーを活用している農場や養殖場の一例をご紹介頂いた。

水は持続可能な循環資源であり、長く賢く使え、その方法にも新たなビジネスチャンスがあり、如何に相手の利益、手間と時間の低減を如何に提案していくかが今後の課題である。



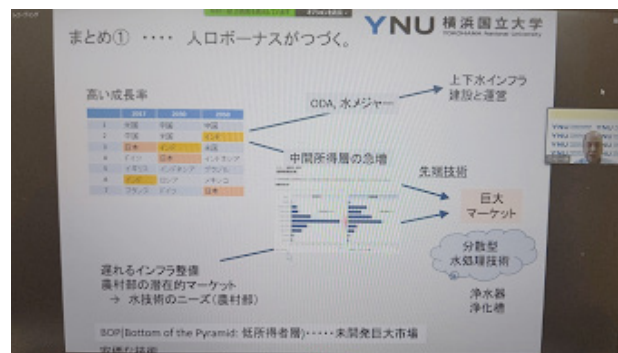
グローバルウォータージャパン 吉村 様

講演2 インドの水事情

講師：横浜国立大学 准教授 中村 一穂 氏

インドビジネスに関する最新の話題(インド概要と成長するインド)、LFPIインドツアー2050年の世界と水技術(インドの視点から)をご講演頂いた。インドの概要としては、2030年には人口は中国を抜き世界1位、GDPが世界3位となり、日本はGDPも抜かれると考えられている。広大な国土と、多様な民族・文化によって構成されている国であり、30歳未満の人口が多く、当面は生産年齢人口比率の増加が見込まれており、この人口ボーナスに伴い、高い経済成長は期待できるが、格差・貧困問題、脆弱なインフラが今後の課題として上がっている。

LFPIのインドツアーに関しては、各工場での排水プラントや飲料水工場での設備、各大学への訪問した活動内容をご報告頂いた。インドにおける水処理ビジネスに関しては今後は大都市部や工業団地を中心とした上下水道の整備、海水淡水化事業に日本の知見や経験、先端技術の積極的なPRを行う必要がある。

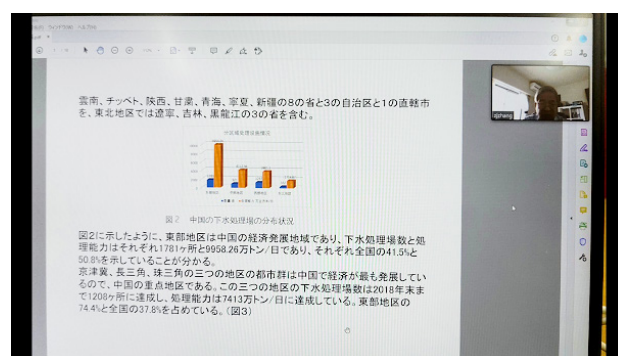


横浜国立大学 中村 様

講演3 中国の水処理ビジネス

講師：上海交通大学 名誉教授 張 振家 氏

中国における最近の水事情を各都市における下水処理状況を中心にご講演頂いた。中国では、大きく分けて東部、中部、西部、東北地区の4つに分割している。東部地区は経済発展地域として下水処理場数は全国の41.5%も占めている。中部、西部は全国の21.5%、29.5%を占め、今後大きく増加する傾向にある。但し、東北地区以外の下水処理場は、ほぼ過負荷状態が続いており発生した汚泥の処理と処分については現在の重要な課題である。今後は中国も脱炭素社会を迎え下水処理設備に関しても省エネ化が進むと考えられている。その背景を下に、設備の多くは省エネ設備への更新する需要が増加することが予測され、これらの問題を解決するにあたり日本の経験や新しい設備は必ず必要になってくるので、水処理事業におけるビジネスチャンスがあるとご説明頂いた。



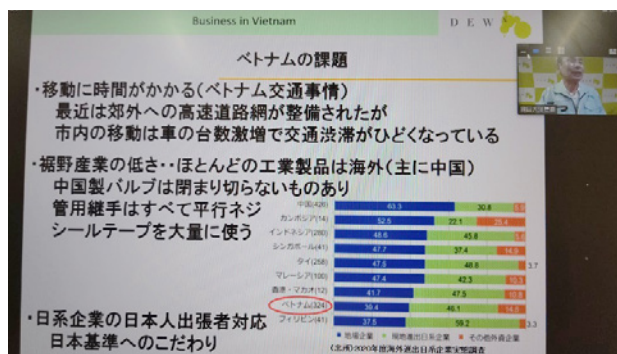
上海交通大学 張 様

講演4 ベトナムの水処理ビジネス

講師：大洋産業株式会社 岡田 史郎 氏

ベトナムの水処理ビジネスと題して、同社の会社概要とベトナムにおける水処理ビジネスに課題、ベトナム駐在中に手掛けられた実案件の内容、現地での拡販活動を行う上でのご苦労話などをご講演頂いた。ビジネスでの課題としては、根強く残るリベートの慣習、日本製品の信頼性は高いものの、最近では類似品も多くローカルとの価格競争で受注が困難な状況も多い。

環境保護意識は低く、将来や次世代に向けた考え方も浸透していない様子。日本国内での基準をベトナムに持ち込もうとしても難しく、日本企業の立ち位置としては日本人感覚のキメ細かい提案型技術営業や協力先のローカル製造企業との相互協力で市場を拡大出来るのではないかとご説明頂いた。ベトナムの将来の展望としては生産年齢人口が若く、高い経済成長率が期待でき、オフィスビル建設や住宅、農業、畜産などの各業種における水処理需要があり、そこに更なるビジネスチャンスを見出していく。



大洋産業株式会社 岡田 様

【所感】

現在はコロナ禍で海外への展開は思うように進んでいない中、アジア諸国における水処理の実情と課題を改めて認識することが出来た。今回ご講演頂いた内容がアフターコロナではビジネスチャンスとなる事も多く、今後は多様な角度からアプローチを行い是非とも実ビジネスに結び付けるようにしたい。

〈東洋スクリーン工業株式会社 今村 尚生〉



ブレイクアウトルームの様子

企業紹介 直治薬品株式会社

直治薬品株式会社の創業は、1843年(天保13年)に旧川越街道の膝折宿(埼玉県朝霞市)という宿場町で「直次」という屋号で酒店を営んだのが始まりです。時代のニーズに合った事業を起こし、1979年には毒物劇物一般販売業の登録をして、化学工業薬品の販売を始めました。

当初は販売業でしたが1990年に創業の地である朝霞市膝折町に工場を設立し、次亜塩素酸ソーダ、苛性ソーダ等のローリー配送、小分け品の製造・配送を始めました。

その後、お客様のご要望から取り扱い製品を徐々に増やし、現在では100品目ほどを自社で在庫しております。ISO9001の認証取得した工場では主力製品である苛性ソーダ、次亜塩素酸ソーダ、尿素水などの20㎡以上の貯蔵タンクを備えており、自社配送用のローリー車は大型車5台(SUS製タンク3台、チタン製タンク2台)、中型車2台(いずれもチタン製タンク)、平ボディ3t車4台を保有しております。

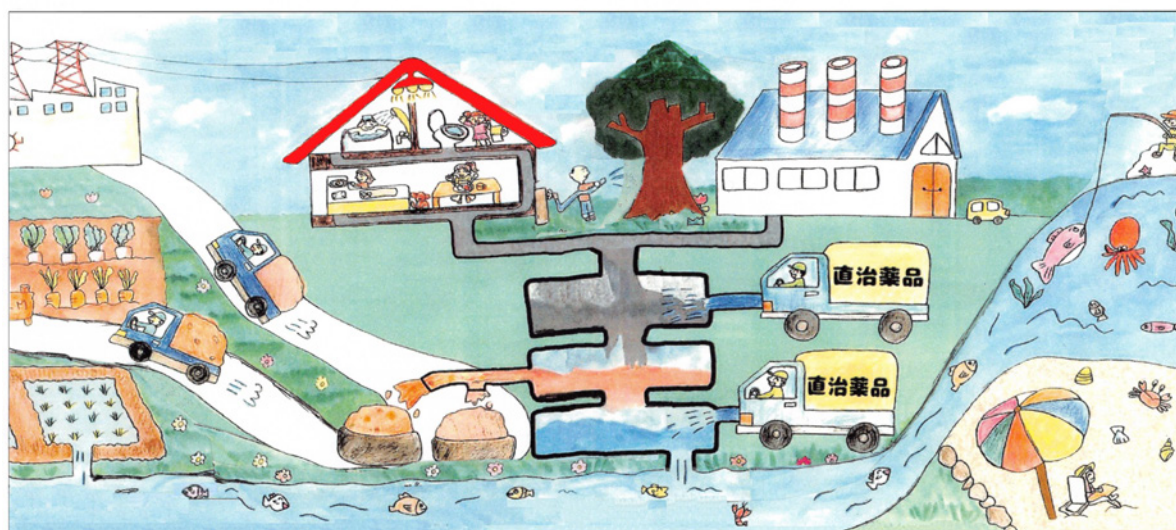
当社の強みとしては、①**自社の貯蔵設備、配送設備を有していること**、②**関東圏のほぼ中央、内陸に位置しており水害等は無縁**、③**自社研究所にて排水処理用薬剤の選定が可能**、が挙げられます。

①、②については有事の際でも製品供給を滞らせることがほとんどなく、お客様からも好評を得ております。特に東日本大震災の時は、千葉、神奈川、茨城の原料メーカーからの供給が途絶えておりましたが、自社ローリーで中部や北陸地域へ引き取りに行くことでお客様の需要に対応することができました。

直治薬品は、日々変化していく世の中のニーズに対し、経営理念にある「**地球環境の浄化・生活環境の向上に役立つ製品・サービスを提供する**」を実践することで社会貢献を果たしていきます。

〈直治薬品株式会社 金子 泰明〉

環境浄化のための化学工業薬品の製造・販売を行なっています



第二工場に設置してある当社の取り組みを模したパネル絵

企業紹介

新菱アクアエア株式会社

当社は1972年に三菱金属(現在の三菱マテリアル)グループの濾過関連製品メーカーとして設立した新菱フィルトレーション(株)を源流とする企業です。

設立以降、当時海外企業が先行していたRO膜による海水淡水化装置やオートクリーン(自動逆洗浄機能)、油水分離装置の自社開発、ワインドカートリッジの量産化、フィルタハウジングのラインナップ拡大に果敢に挑戦し、日本の高度成長を担ってきました。

それらの軌跡を残した偉大なる諸先輩方に改めて敬意を表したい思いです。

オイルショック、バブル崩壊、リーマンショック、大きな震災など過去の難局を幾度も乗り越え、現在でもビジネスが継続できている事は、多くの皆様に感謝しております。

さて、現在の当社の事業はフィルタ関連事業と空調関連事業の二本の柱で運営しています。

社名の新菱アクアエアは水(アクア)と空気(エア)を表現し、三菱マテリアルグループの企業理念である「人と社会と地球のために」にマッチしたものとなっています。

当社の主な製品であるワインドカートリッジやフィルタハウジングは、お陰様で多くのお客様にご使用頂いております。

日本液体清澄化技術工業会に関連して「清澄」を辞書で調べてみると、「澄みきっていて清らかなこと。また、そのさま。」とあります。

さらに「澄」の成り立ちですが、「上昇を連想させる『登』と『水』を表す【氵(さんずい)】を組み合わせ、『上澄みがあがって水が透き通る様子』を示している。」とのことです。

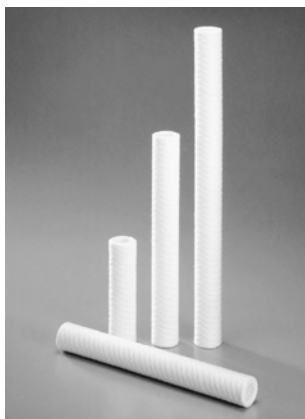
濾過を通じて、まあ何とも素晴らしいお仕事をさせて頂いている、と実感する次第です。

少数精鋭を自負する当社ですが、これからも「フィルタを通して」社会貢献をして参る所存です。

LFPI会員の皆様、今後共宜しくお願い致します。

更に当社を知って頂く場合はこちらまで。 <https://www.shinryo-aquair.com/saa/>

(新菱アクアエア株式会社 営業部 廣木 正明)



シンリョウ・ワインドカートリッジ(SWPP型) 厳選された素材を使用しています。



シンリョウ・フィルタハウジング(FL型) 中型で軽量化を図った製品です。



シンリョウ・フィルタハウジング(QN型) 大型仕様品、特殊仕様品も対応致します。



技術委員のつぶやき話(その45)

摂南大学 理工学部都市環境工学科 水野忠雄

<日常>

「新しい生活様式」が提案されて1年が過ぎました。ワクチン接種後をにらんで、新しい「新しい生活様式」について議論されているとも聞きます。ここ数年は、毎年のように「X年に1度」の異常気象や甚大な災害が発生しています。それぞれの事象について深く考えるとともに、その裏側である日常、例年、通常、とは何かを考える機会が増えたとも言えそうです。

新しい生活様式として、在宅勤務をする機会が増えました。もともと在宅でも就業している人が多い職業ではありますが、明示的になったと言えます。初期の頃は、文字通り淡々と在宅で勤務している感じでした。最近ではせっかくなので平日の居住地域を満喫すべく、昼間に散歩してみたり、ついでにランチをしたり、近くにある府立の図書館で読み物をしたり、新たな刺激を与えて集中力が高まる方策を試行中です。在宅勤務は、単に家で仕事をするを超えて、行動の時間的配置を再考できる新しい様式なのかなとも思います。好きで住んでいる地域ですが、見過ごしていたことも多いなと感じる今日この頃です。家の前の写真を撮ってみました。新緑まぶしく、清々しい朝です(右)。奥には、結婚式用の教会があります。と思いきや、対面は田畑、奥には比叡山が見えたりします(左)。最近は夜になると、カエルの鳴き声も聞こえます。

コロナ禍、大変なことも多いですが、日常に小さな幸せを発見することができる貴重な時間なのかも知れません。



情報アレコレ

広報委員会がちょっと調べてみました

第22回

（ 製造業を支えるニッポンの「鉄」 ）

かつて「鉄は国家なり」といわれた時代がありました。「鉄」は最終的に自動車や電気製品などの耐久消費財や建築材料、輸送機器、産業機械、プラント、ビルや橋梁と裾野が広い基礎素材で、たくさんの雇用を生み出すことから「産業のコメ」とされ、今も産業を支える基盤となっています。昨年から新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、鉄鋼需要が一時的に落ち込みましたが、世界でワクチン接種が広がり、景気回復しつつある中で、現在鋼材価格が高騰しております。今回は日本のものづくりを支える「鉄」や「鉄鋼業」についてアレコレ調べてみました。

製鋼法・鉄鋼製品

製鉄設備は大きく「高炉法」と「電炉法」に分類されます。「高炉法」は、鉄鉱石と石炭を原料として鉄鉄をつくり、転炉で精錬して製鋼する方法で、市場規模の大きい薄板鋼材などを大量に生産できるのが特徴です。製造過程で発生する一酸化炭素を燃焼させて火力発電を行い、製鉄所の電気をまかなえるのは

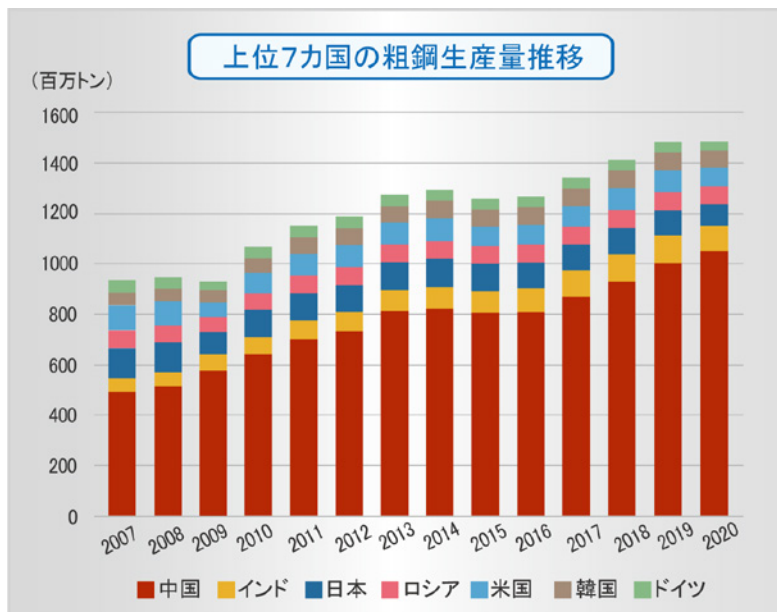
利点ですが、石炭を原料としたコークスを使って鉄鉱石を還元して鉄を作るため、大量のCO₂を排出します。日本の大手製鉄会社3社はいずれも高炉メーカーで、国内生産の約4分の3のシェアを占めています。原料の「鉄鉱石」と「石炭」は日本国内で採掘できないため、100%輸入に頼っているのが現状です。

「電炉法」は、鉄スクラップを原料として電気で溶解して精錬して製造する方法です。鉄のリサイクルを主とした製鉄法で、「高炉法」に比べて低炭素、省エネ、設備費が少ないといった利点があるため、環境保護の観点から今後は電炉での生産を増やすといわれていますが、電気料金の値上げやスクラップに含まれる不純物など課題もあります。

鉄鋼製品は語り尽くせないほど用途が多岐にわたります。一般的な用途に使われる普通鋼鋼材、またクロムやニッケルなどを添加して製鋼されるステンレス鋼のような特殊鋼鋼材など、鋼種も形状も多種多様です。日本の鉄鋼製品は依然として良質で需要も高いといわれています。

国力を示す粗鋼生産量

粗鋼とは、鋼材に加工される前の鋼のことです。日本鉄鋼連盟による最新の発表によると、「2020年度の国内粗鋼生産量は8,279万トン、前年度比15.9%減、4年連続の減少となり、1971年度(8,844.1万トン)以来の9,000万トン割れとなった」



とあります。これは、新型コロナウイルス感染拡大による影響で、製造業や建築等の減速が響いたことが要因ですが、日本は長期的にみても低調が続いています。

2020年の世界の粗鋼生産量は、前年比0.9%減の18億6400万トンと、やはり新型コロナウイルス感染拡大の影響で、5年ぶり前年割れとなりましたが、国別で見た場合、2020年の中国粗鋼生産量は、前年比5.2%増の10億5300万トンで、10ヵ月連続プラス、4年連続で過去最高を更新しているのです。世界鉄鋼協会の統計によれば、2020年4月時点で世界粗鋼生産での中国のシェアが約6割を突破したといわれています。中国は1996年に1億トンを達成してからずっと増産を続け、25年連続世界一位を維持しており、この生産過剰が世界の鉄鋼市場に大きく影響を与えています。中国は最大の消費国でもあります。国内需要が不振になれば大量の鉄鋼製品が輸出に回り、価格が下落してしまいます。逆に国内需要が高まると、たちまち原材料も含めて価格が上昇するなど、世界に大きく影響を及ぼす構図になっているのです。

変革を迫られる日本の高炉メーカー

中国の過剰生産による価格の下げ圧力、同国による原料(鉄鉱石)の買い付け増によるコスト高に加え、円高、国内需要の低迷など日本の鉄鋼業は厳しい状

況が続きました。また、世界で一気に進む脱炭素社会の流れもあり、鉄鋼のシンボルだった高炉は集約化せざるを得ません。国内の製造業CO₂排出量の内、4割強を鉄鋼業が占めるからです。今年に入り、日本の高炉メーカーは国内にあるいくつかの高炉の休止を発表しました。現在国内にある24基ほぼ全てを2050年までに閉鎖すると予想されています。

今後高炉メーカーはカーボンニュートラルを目指し、大幅な人員削減や巨額の設備投資など、抜本的な再構築を図るとされています。鉄鋼業は輸出品目で第4位の輸出産業でもあるため、国際競争力を取り戻すためにも革新的な対策を講じる必要があるのでしょうか。

鉄鋼大手メーカーはいずれも2050年までにCO₂排出量の実質ゼロを目標にするとし、各社「還元鉄」や「水素製鉄法」など新技术を打ち出して、連携しながら低炭素化を模索するとしています。「水素製鉄法」は石炭の代わりに水素を利用して鉄をつくる製鉄方法で、理論上はCO₂が発生しません。水素還元技術は期待も大きく、日本でも以前より実用化に向けて開発を進められてきましたが、膨大な研究費がかかることや、水素の安定した調達など課題は多くあります。いずれにしても日本の基幹産業は、変革の大きな波が押し寄せてきており、大変な転換期を迎えているのは確かなのです。

〈株式会社青木工業所 岩井 順子〉





私たちが頑張ってます! ~若手社員の仕事風景~

株式会社アースプロテクト



今まで出来なかった事が、
出来るようになる

技術部 玉越 愛

当社は純水製造設備、排水処理設備、排ガス脱臭装置など水、大気、土壌の浄化設備の設計・製作・施工をおこなっています。

私の業務は当社の設備を運用するための自社オリジナル薬剤の改良、開発です。私は工場排水処理専門の水処理メーカーで技術営業を7年間勤めた後、今年4月に当社に入社しました。水処理の現場で7年間排水処理設備の検討、立ち上げ、運転管理などに携わった経験から、既存の自社薬剤の改良、処理能力の向上といった効果を示す添加剤の検討や、新規薬剤開発に従事しています。いずれも排水や土壌に添加する薬剤のため、高価なものや自然環境に悪影響のあるものは使えません。また現場によってはハンドリングに優れた粉体が良い、薬剤添加後のpHが中性が望ましいなどの付帯条件もあり、これらを全て満たす化合物やその組み合わせを探すのはパズルのような面白さがあります。

また当社は水処理だけでなく大気や土壌の浄化にも携わっているため、お客様からいただくご依頼内容も水処理の案件ばかりではありません。有害金属除去ひとつとっても、水を処理する場合と土壌を処理する場合とで薬剤に求められる性能や現場設備の状況などが大きく異なります。これまでの経験を活かしつつ、これまでに体験することのなかった新たな世界に触れる日々を非常に面白く感じています。

「今までできなかったことができるようになる」技術をお客様に提供するだけでなく、自分自身の「できる」を増やし、自社の将来に大きく貢献できる人間として成長したいと考えています。



私たちも頑張ってます!

～若手社員の仕事風景～

株式会社青木工業所



自分ができる最大限の技術で 確かな製品を届けたい

技術部 橋本 太郎

当社は自動スクリーンを製造する会社です。水処理工程では前処理として使われることが多い機械です。お客様のニーズに合わせて機長・機幅はもちろん、スクリーンの目幅など設置条件に合わせて仕様を変え、設計、製造、メンテナンスまで行っています。

私は子供の頃からものづくりに興味がありました。社会人になって板金工として働き始めたことをきっかけに溶接を本格的に学び、一流を目指して努力してきました。最初はなかなか思い通りにいかず、かなり苦労しました。自信を持って製品として世に出せるレベルまで到達するのに4～5年はかかったと思います。

今の会社に入って数年経ちますが、ステンレスを扱うため、アルゴン(TIG)溶接を主にして作業をしています。排水処理機として水を使用するため、決して水漏れなどあってはならず、確実な接合が求められています。形状によって接合しにくい箇所の溶接も多くありますが、常に平坦で誰もが美しいと思えるような溶接を日々追究しつつ邁進しています。また、溶接痕の処理において、以前は酸洗で行っていましたが、環境や耐食性を考え、手間はかかりますが、ステンレス表面の改質や不動態化を伴う中性電解液を使った焼け取りを行うなど、お客様に安心して長く使っていただけるよう丁寧な製品作りを心掛けています。



ユーザー会員としてLFPIに望むこと

LFPI広報委員会の活動として、ユーザー会員の意見発信を企画しました。今回は1ユーザー会員の意見となっておりますが、主にHPに掲載している「会員のメリット」のいくつかの項目に対し、ユーザー会員としてのメリットや会に対する希望・要望を述べたいと思います。



技術・開発力アップ

- **セミナー**：幅広い液体清澄化技術の基礎を学ぶ機会が活用できます。私自身もLFPIのセミナー・講習会に参加しましたが、どれも非常に勉強になりました。開催されている内容は基礎的なものから、最新情報が学べるものなど多種多様です。
- **講演会、見学会**：参加したことがありませんが、過去の報告を見ると実際に参加してみたいと思うものが幾つもありました。ユーザー会員の企業の立場からは、他企業や施設の水処理や清澄化技術を使用している現場を見学する機会が少ないため、見学会という機会を得られることはメリットだと思います。私は食品製造業のため、特に食品加工に用いられるろ過技術や清澄化技術に興味があります。
※セミナー、講演会・見学会は、行事告知の際、講演内容や目的などの情報をより詳しく案内して頂けると、より参加しやすくなると思います。
- **書籍**：LFPIで出版している技術書やガイドブックは、参考書や入門書としての利用価値がとても高いと感じます。宣伝方法や購入方法の選択肢を増やすことでより多くの人に読んでもらえ、当会の目的である清澄化技術の発展にも貢献でき、会の普及にもなるのではないかと思います。



営業力アップ

ユーザーが求める製品や技術・サービスを吸い出す機会として、アンケートの実施やイベント時の交流機会を増やす等の試みを増やすことで、営業力アップに関するメリットが生じると思います。そのためにも、ユーザー会員の増加を進める必要があると思います。



社員折衝能力アップ

委員会や分科会の事業への参加は、生業から距離を置きLFPIの目標へ向けての活動の参加が出来るため、折衝能力を鍛える機会になると思います。

その他

- **情報発信**：会からのお知らせに関して、LFPIではホームページのお知らせと、会員代表者へのメール連絡が主ですが、セミナー参加者や希望者へ、定期・不定期でメールやSNSによるイベント告知や書籍出版の案内が可能なら、各種イベントの参加率が上がるかもしれません。
また、会員になるメリットとして、イベント参加費や書籍価格の割引や、会員限定の勉強会がありますが、会員限定のサービスの充実が、新規会員の獲得や維持に繋がるのではないかと思います。

〈株式会社加藤美峰園本舗 滝川 至〉

会からのお知らせ

★バナー広告をご利用されましたか？

会員特典の活用：製品・企業認知度アップ！
会員・閲覧者皆様へのご紹介に最適



こちらから

効果：コンタクト作り

- ・会員企業様
- ・一般のビジター

リンク：詳細とお申込み

<https://www.lfpi.org/ad/>



編 集 後 記

LFPIの皆様、感染対策を徹底し元気にお過ごしでしょうか。

この時期の話題と言ったら…鰻でしょうか。7月は土用の丑の日ですよ。予約が一斉に始まっております。この時期、免疫力をあげる為に鰻について調べてみますと、生産量トップは鹿児島県との事です。次に愛知県、宮崎県、静岡県、高知県。静岡県がトップではないのです。各産地で特徴も様々みたいです。食べ比べセットのお取寄せも出来る様なので、この機会にいかがでしょうか。

ところで東京オリンピックは無事、開催されるのでしょうか？ LFPIの行事もなかなか開催が難しい状況です。今回は新企画として「ユーザー会員としてLFPIに望む事」を盛り込みました。皆様からも活発的な意見・要望を是非、お待ちしております。今後ともLFPI活動にご協力の程、よろしくお願いいたします。

〈野村マイクロサイエンス株式会社 吉田 知香〉

◆ 編集／発行：日本液体清澄化技術工業会 広報委員会 ◆ 住所：〒532-0021 大阪府大阪市淀川区田川北1-12-11
◆ TEL：06-6308-1011 (株)トーケミ内 安達 FAX：06-6308-1099
◆ LFPIホームページ <http://www.lfpi.org>